



ART AND SPORTS

藝術学関連学会連合 第15回 公開シンポジウム 芸術とスポーツ

意匠学会
国際浮世絵学会
東北芸術文化学会
東洋音楽学会
日本映像学会
日本演劇学会
日本音楽学会
日本デザイン学会
比較舞踊学会
美学会
美術科教育学会
美術史学会
広島芸術学会
服飾美学会
舞踊学会
15学会50音順

2021年6月12日(土)
13:00-17:00オンライン
Zoom 開催
[参加申込はこちら](#)

藝術学関連学会連合 第15回 公開シンポジウム

2021年 6月12日 (土)

13:00-17:00

オンライン Zoom 開催

芸術とスポーツ



[参加申込はこちら](#)

必要事項をご記入ください
受付確認のメールが届きます
Zoomの案内ならびに講演資料は
6月初めにお送りします

13:00 開会の言葉 藤田治彦 | 藝術学関連学会連合会長
全体の趣旨 貫 成人 | 舞踊学会 | 専修大学

第1部 芸術とスポーツの現場 13:30-14:30

13:30 スポーツの動作に潜む美の可能性
平山素子 | 舞踊学会推薦 | 筑波大学

13:50 重度・重複障害児からアートとスポーツの根源を考えるー遊戯論を視座として
池田吏志 | 美術科教育学会 | 広島大学

14:10 スポーツ美学における芸術とスポーツ
樋口聡 | 広島芸術学会 | 広島大学

第2部 過去と現在、未来 15:00-15:40

15:00 オリンピックと美術家ー1930年代を中心に
五十殿利治 | 美術史学会 | 筑波大学

15:20 芸術、スポーツ、ゲームー三項関係で考える
吉田寛 | 美学会 | 東京大学

第3部 芸術とスポーツの可能性 16:00-17:00

16:00 パネルディスカッション
池田吏志 五十殿利治 樋口聡 平山素子 吉田寛 (五十音順)

16:55 閉会の言葉 永田靖 | 日本演劇学会 | 大阪大学

17:00 終了



藝術学関連学会連合 第15回 公開シンポジウム

2021年 6月12日 (土)

13:00-17:00

オンライン Zoom 開催

芸術とスポーツ

趣旨説明

貫 成人 | 専修大学

[参加申込はこちら](#)

芸術とスポーツは、縁遠いようで、さまざまな親近性がある。

古来「アスリート」「体育」「スポーツ」「体操」もしくはそれに類するものは美的表象の対象や主題だった。《円盤投げ像》など、古代ギリシアの彫像、浮世絵における「力士絵」、マイブリッジによる馬の連続写真、テニスをテーマにしたニジンスキー《遊技》また、《インビクタス》などスポーツを主題とした映画や写真などがあげられる。スポーツはまた、デザインやファッションとも親近性を持つ。「ポロシャツ」「ラガーシャツ」あるいは「スタジアムジャンパー」などは、その名のついたスポーツなどから発想を得ている。2021年東京大会が開かれるオリンピック・パラリンピックも、「スポーツの祭典」とされながら、近代におけるその創設当時から文化・芸術と密接な関係を持っていた。

1912年ストックホルム大会から1948年ロンドン大会までは、絵画、彫刻、音楽、建築、文学という五「種目」に関してメダルが競われ、その廃止後も「文化プログラム」として芸術展示を行うことが「オリンピック憲章」に定められている。2012年ロンドン大会では、文化プログラムとして、ドイツの振付家ピナ・バウシュが招聘されて10作品を上演した。2021年大会も多くの「文化プログラム」が予定されている。

一方、こうした、芸術のためのプログラムとは別に、「本体」であるスポーツ、あるいはオリンピック・パラリンピックそのものの運営にも芸術は様々な形で関わっている。ベルリン大会におけるマリー・ヴィグマンやルドルフ・ラバン、アルヴェールヴィル大会におけるフィリップ・ドックフレ、北京大会におけるチャン・イーモウなど、開会式や閉会式には、開催国を代表する芸術家が監督として関わる。大会ロゴ、ポスター、選手ユニフォームデザインなどは、東京大会での田中一光など、その国の代表的デザイナーが手がけた。東京大会ではまた、現在、全世界で広く用いられるピクトグラムが考案される。ベルリン大会におけるレニ・リーフェンシュタール『オリンピア』、市川崑監督『東京オリンピック』など、映像との関係も見落とすことはできない。

さらに、スポーツそれ自体にも美は内在している。フィギュア・スケートやアーティスティック・スウィミング、新体操などにおける「芸術的要素」、あるいは、体操日本選手が口々に語る「美しい体操」という言い方、さらに、そもそもスポーツ選手の身体一般についてなされる「美しい」という言い方がそれである。

一方、オリンピックはまた、同時に、世界規模での「身体政治」や「政治の美的顕揚」の装置でもある。それ以前に、19世紀における「体育」「体操」、ならびに、20世紀における「スポーツ」の誕生と、19世紀における「芸術」の制度化との間には、ひとしく近代化の過程として平行関係があったはずだ。それとコインの裏表の関係にあるものとして、同時に発生した、スポーツにおけるアマチュアと、絵画や音楽、ダンスなど芸術のアマチュアの役割に注目することも出来るだろう。さらに、同じ身体技能でもスポーツとダンスにどのような相違があるのかを問題にすることも出来るかもしれない。

2021年夏の開催を前に、オリンピック・パラリンピック、またスポーツのあり方を、芸術という切り口から、多角的に掘り下げる機会としたい。

藝術学関連学会連合 第15回 公開シンポジウム

2021年 6月12日 (土)

13:00-17:00

オンライン Zoom 開催

芸術とスポーツ

[参加申込はこちら](#)

スポーツの動作に潜む美の可能性

平山素子 | 舞踊学会推薦 | 筑波大学

私はコンテンポラリーダンサーの立場からフィギュアスケートやアーティスティックスイミングの日本代表選手の「表現力向上」の指導を10年以上手掛けてきました。彼らは「音楽との同調」をとりわけ重要視して「何かを表現しなければならない」と義務感にかられ、採点競技ゆえ定型的なものに価値を置く傾向にあります。この場面でどのように運動の巧みさや機能的な動作、遊戯性を通して、動きの本質の美を高めようとしてきたかをお話しした上で、スポーツのなかに芸術を見出す瞬間（永遠性・普遍性）について個人的な意見をお話ししたいと思います。

重度・重複障害児からアートとスポーツの根源を考える－遊戯論を視座として

池田史志 | 美術科教育学会 | 広島大学

例えば、アートとスポーツが誰のためのものでもあるという前提に立つ時、重度・重複障害児の心身から生まれる身体運動や美的（感覚的）な表現性はどのように捉えることができるだろうか。また、アートやスポーツの概念はどのような再編が必要となるだろうか。本発表では、身体行為を根本的な水準で捉え、アートとスポーツを結び付ける試みとして重度・重複障害児の造形活動で見られる「遊戯性」を視座として導入し、両者の根源的な共通項を探る。

スポーツ美学における芸術とスポーツ

樋口聡 | 広島芸術学会 | 広島大学

「スポーツ美学 (Aesthetics of Sport)」と称される研究が、1970年代に英米を中心に、「スポーツ哲学」という学問分野の一領域として始められた。その機縁を、1972年のミュンヘン・オリンピックの際の文化イベントの一つであったスポーツ科学会議に求めることができる。スポーツ美学の研究課題の一つに「芸術とスポーツ」の関係論があった。スポーツは芸術と見なせるのではないかという議論である。本報告では、その問いをめぐる論争について概説する。さらに、スポーツ美学の黎明期の近代絵画とスポーツの関係を論じた一つの英語論文 (1974) を紹介する。

藝術学関連学会連合 第15回 公開シンポジウム

芸術とスポーツ

2021年 6月12日 (土)

13:00-17:00

オンライン Zoom 開催



[参加申込はこちら](#)

必要事項をご記入ください
受付確認のメールが届きます
Zoomの案内ならびに講演資料は
6月初めにお送りします

オリンピックと美術家－1930年代を中心に

五十殿利治 | 美術史学会 | 筑波大学

オリンピックに競技種目として芸術が加わったのは1912年ストックホルム大会からであるが、本格化するのドイツが復帰し、1928年のアムステルダム大会からである。この祭典は1936年ベルリン大会ではナチ政権下で実施されたため、30年代の政治状況の影響を受けないわけにはいかなかった。日本は次回開催のために準備を進めた一方で、大会そのものへの美術家の反対運動を惹起した。国策とからむ文化事業と美術の関係について考察する。

芸術、スポーツ、ゲーム－三項関係で考える

吉田寛 | 美学会 | 東京大学

本発表では芸術とスポーツの関係を「ゲーム」という第三項を介して考える。芸術とゲームはどちらも「社会的状況のモデル」と考えられてきた。他方、両者の構造的違いを重視して「ゲームは芸術にはなりえない」と主張する論者もいる。こうした議論は、ゲームの一種であるスポーツにどこまであてはまるだろうか。またそもそもスポーツはゲーム全般の中でどのような位置を占めているのか。こうした基本的問題の整理は、「ゲームを使ったスポーツ」であるエレクトロニック・スポーツ（eスポーツ）を理解するためにも急務であろう。

